

第3種郵便物認可

【月ぎめ購読料(消費税込み)】

よどんだ水、悪臭と苦悶

大城七子看護師ら

津波被害救援
アチエ州派遣

「病院の周りは水たまりでぬかるみ、雨上がりにはひどい悪臭」。救

援活動に訪れた日本人医師らがため息をついた。スマトラ沖地震の津波被害に見舞われ、感染症の流行が心配されるインドネシア・アチエ州。現地

は地震発生から一カ月を

ルポ

ら派遣された。高橋さんらが即席の診療所を開は一九九五年の阪神大震災や、九〇年代後半の旧ユーゴスラビア・コソボ

「腕がかゆい。手袋よりその日の食料を買う方が先」と言われます」大城さんは「海外での医療救援は初めてですが、最初にこういう所に来れば、今後どこに行っても大丈夫でしょう」と明るく笑った。(バンダアチエ共同＝大熊慶洋)

マラリア、破傷風を懸念

紛争などでも医療救援活動に参加している。おせず多くの死体を回収したからだろう」とマルと嘆息した。「アチエはコソボに似

る派遣された。高橋さんらが即席の診療所を開は一九九五年の阪神大震災や、九〇年代後半の旧ユーゴスラビア・コソボ

目立つのは皮膚病患ことが不可欠。でも「靴から下痢気味」。それでも

村の避難所に向かった。二人は民間団体「アシア医師連絡協議会」(A)に被災者ら約四百五十人

MDA、本部岡山市)か

が生活している。高橋さ

では誰かがマラリアにか

れる」と話した。高橋さん

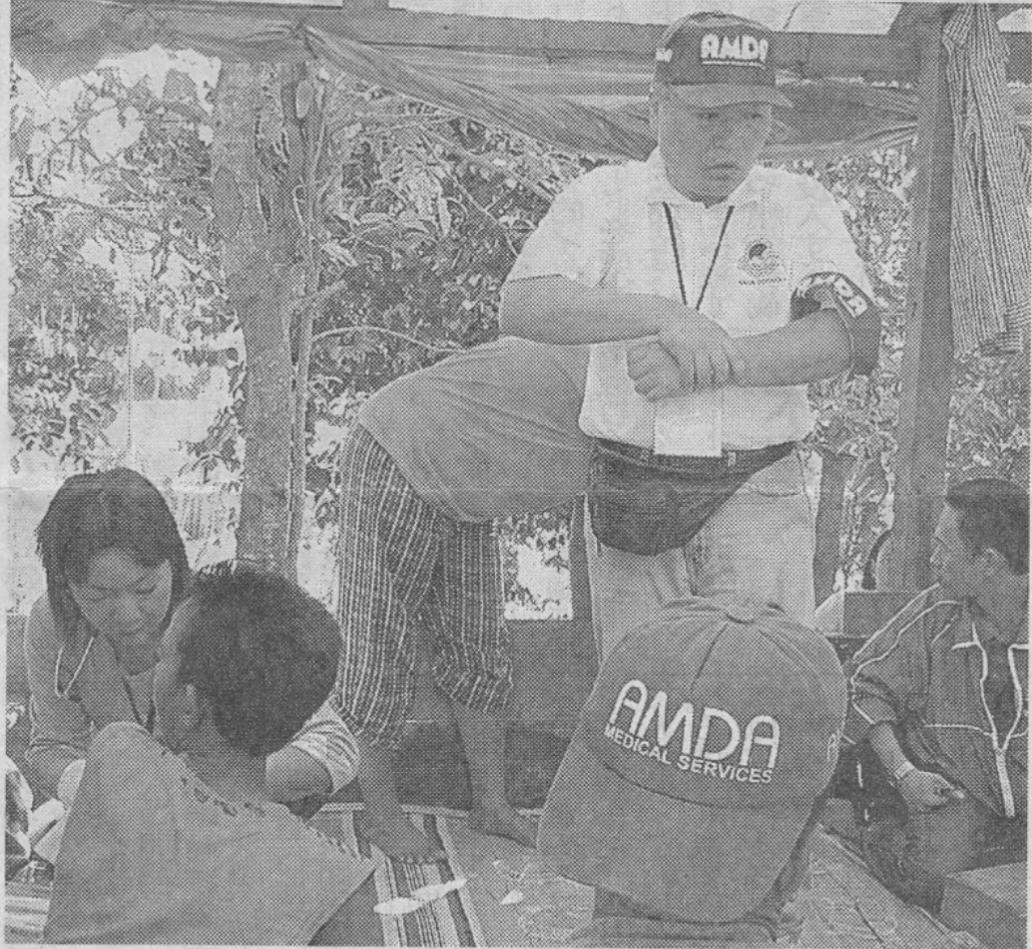
も「水たまりから蚊が発生し、マラリアが大流行する恐れがある

分整備されていないので、破傷風患者も増える

と懸念する。大こぼした。城さんは「破傷風は土か

ら感染するので靴を履く

さんだが「三日ほど前か



インドネシア・バンダアチェで診療に当たる高橋徳医師（右の立っている人）と大城七子看護師（左奥）